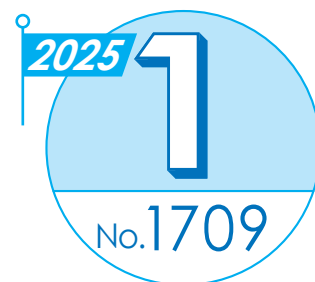


かいばい NEWS



新年増大号

境内の「駒つなぎのイチョウ」は茨城県指定の天然記念物。毎年10月29日には400年以上の歴史を持つ
神事流鏝馬（日立市無形民俗文化財）が行われる。大久保鹿嶋神社

CONTENTS

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| ■年頭所感…………… 2～10 | ■相談所だより…………… 24 |
| ■誌上名刺交換…………… 11～17 | ■国・県・市からのお知らせ…………… 25 |
| ■新春座談会…………… 18～22 | ■協賛広告…………… 26～36 |
| ■新年名刺交換会/常議員会/商工会議所の動き… 23 | |



発行所 ● 日立商工会議所 〒317-0073 日立市幸町1-21-2
 発行人 ● 鈴木昇 購読料 ● 200円 (購読料は会費の中に含まれています)
 TEL 0294-22-0128 FAX 0294-22-0120 ホームページ <https://www.hitachicci.or.jp/>

日立商工会議所 検索





新時代で躍進

― 地域と共に ―

日立商工会議所 会頭

秋山 光伯



謹んで新春のご祝詞を申しあげます。

会員事業所の皆様には、平素から日立商工会議所の事業運営に、温かいご支援、ご協力をいただいておりますことに厚くお礼申しあげます。

昨年の年明けは、能登半島でマグニチュード7・6、最

大震度7を観測する地震が発生、9月には豪雨に見舞われ、被災された地域の現状に心を痛めました。年末には国の支援予算が成立したことから、当該地域の経済活動の回復に期待が高まるところです。

一方、日本経済は、海外動向の影響などから諸課題が山積し、中小企業を取り巻く環境は、円安や消費者物価・エネルギー価格高騰、個々の企業にあつては、深刻化する人手不足、働き方改革推進、賃

上げ圧力など、依然厳しい状況にあります。当日立市におきましては、産業構造をはじめ経済環境の変化などで先行きの不透明感を強めております。私たち企業にとりまして、こうした難

しい時代を過去にも経験し、都度、各々の企業努力で多くの困難を乗り越えながら、行政とともに現在の地域基盤を確立してまいりました。時代の変化とともに私たちは、柔軟な対応をもって自社の繁栄



と地域づくりに邁進しなければならぬと、新年を迎えるにあたり、改めて感じているところです。

マラソン」が開催され、商工会議所として応援をさせていただきました。太平洋の眺望を満喫できるコースを、4、

小・小規模企業の厳しい環境下における経営基盤の強化を図るべく、巡回窓口をはじめとした各種相談に応じてきま

と感じております。ものづくり関連では、大手企業の事業体制変更により、高い技術や技能を有した人材

くら」「海」「日立アルプス」をはじめとする自然の観光資源や日立市の発展の歴史を物語る「産業遺産」を域外へ広く発信し、有効活用を図って参ります。

そのような中、日立市の代表的な催事であります日立さくらまつりでは、37万人の皆さんに「桜」をお楽しみいただきました。秋の産業祭では、地場産品や市内の産業が昨年よりも多く紹介され、来場の皆さんにたのしんでいただくとともに、昨年、日立市との

396人のランナーが疾走、産業界をはじめ、コース沿道の地域の皆さんがこぞってこの大会を盛り上げました。いずれも、日立市の多くの魅力を知ってもらう絶好の機会となり、産業、観光、スポーツを活かした地域の発信力が益々高まっているところです。

日立商工会議所では、「新時代で躍進―地域と共に―」をスローガンに、3100社余の会員事業所の経営安定のため、会員の声を活かした事業実施と各種相談体制の維持強化を重点に、社会情勢の変化に則した事業に邁進してまいりたいと考えております。

観光振興関連では、さくらまつり「花見茶屋」募集運営に尽力するとともに、来街者へのサービスと更なる誘客に向け、ふるさと日立検定合格者や地元大学生の皆さんにボランティアガイドとしてご参加いただき、催事への積極的な参加と支援を行いました。さらには、新ふるさと日立検定を観光PRの素材として、「さ

皆様には、変化する厳しい経営環境の中で、事業の継続と発展に向けて、日々努力を重ねていることに改めて敬意を表します。人口減少などの課題もございますが、過度に悲観せず、地域に対する誇りを持ち、企業と行政、市民が連携することでこの難局を乗り切り、新しい時代に躍進するため、手を携えて邁進して参りたいと存じます。

山形県山辺町からは、リングやラフランス、菓子や絨毯、また、親善都市である群馬県桐生市からは、衣料品や繊維製品など、どちらも日立市民に馴染みの深い特産品を販売いただき、活況でありました。新たなイベントとして、日立市初のフルマラソン大会となる「第1回ひたちシーサイド

時代で躍進―地域と共に―」をスローガンに、3100社余の会員事業所の経営安定のため、会員の声を活かした事業実施と各種相談体制の維持強化を重点に、社会情勢の変化に則した事業に邁進してまいりたいと考えております。

商業・サービス業関連では、部会内で専門機関を組織し、商店街回遊性の向上と消費購買力の増強及び事業所個々の活性化に寄与すべく、新しい形態によるフリーマーケットやドリンクラリースタイルの実施について研究を重ね開催、好評を得ました。今後継続することで、その効果がより感じられるようブラッシュアップが重要だ

結びといたしまして、会員並びに関係皆様の益々のご健康とご多幸をご祈念し、年頭のご挨拶といたします。



明けましておめでとうございます。

2025年の新春を迎え、

謹んでお慶び申し上げます。



新たな成長への飛躍の年に

日本商工会議所 会頭 小林 健

さて、昨年は内外ともに不透明かつ混乱の度合いが深まった1年でした。世界ではロシアによるウクライナ侵略の長期化に加え、中東情勢の悪化など、地政学的リスクが拡大しました。また、経済面では米国経済が堅調さを維持する一方で、中国経済

の停滞が懸念される年になりました。加えて、昨年は主要国で選挙が相次ぎ、米国では4年ぶりにトランプ氏が次期大統領に就任する結果となり、保護主義や自国第一主義の台頭に対する懸念が再び高まっています。

国内に目を転じますと、

1月の能登半島地震や9月の奥能登豪雨といった痛ましい災害に見舞われた1年でありました。また、秋の衆院選では与党が30年ぶりに過半数を大きく下回り、少数与党へ転じるなど政治的変動が生じる一方で、経済では、歴史的円安や物価高が続く中、設備投資は好調で日経平均株価も史上初の4万円台を記録しました。日本銀行はマイナス金利の解除に踏み切るなど、金融政策にも大きな転換点が訪れました。特に昨

年は「賃上げ」をテーマとした1年でもあり、中小企業の賃上げ率も3%台半ばに達するなど、物価と賃金の好循環に向けた大きな一歩を踏み出した1年であったと総括できます。企業の自助努力とともに、官民を挙げた価格転嫁の取り組みが効果を示した結果であります。賃上げを行った中小企業の約6割が収益改善を伴わない中で、人手確保のための防衛的賃上げを迫られたことも事実です。賃上げのモメンタム

をいかに持続可能な形に転換するかが、停滞から成長のステージに向けた今年の大きな課題となります。成長の両輪は中小企業の強化と地方創生。日本は経済立国であり、経済成長なくして将来はありません。デフレ脱却を確実にし、成長型経済への転換を進めるためには、GDPの6割を占める個人消費の拡大が不可欠です。その実現は、全企業数の99・7%、就業人口の約7割、地方部では

約9割を担う中小企業・小規模事業者の生産性向上と持続的な賃上げにかかっているといっても過言ではありません。成長の両輪の一つは中小企業であり、そのデジタル化、省力化投資を含めた設備投資、技術革新、知的財産の活用・保護といった生産性向上への不断の努力と自己変革によって付加価値を高め、賃上げ原資を生み出す必要があります。われわれ商工会議所は本年もこうした前向きな挑戦を続ける中小企業を全力で支援してまいります。また、労務費を含む価格転嫁対策のさらなる推進やBtoCでは企業側の「値を上げる勇気」も必要です。消費者に

も「良いサービス、良いモノには値が付く」という認識を持っていただき、国民全体のデフレマインドを払拭することも今年の大きなテーマであります。消費意識の改革とともに経済環境の改善を目指していきたいと思っています。

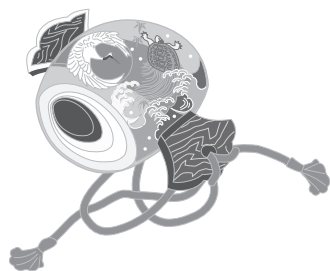
また、成長の両輪のうち一つは「地方創生」です。地方の発展なくして日本の再生はありません。政府、地方自治体、民間が三位一体となり、地域への人材・投資の呼び込みや「稼ぐ産業」の育成、インフラ整備などを通じて地域の経済循環を強化し、地域の強みと潜在力、いわゆる「地域力」を引き上げるべく全力を傾ける年にし

なくてはなりません。地域の経済インフラを担う中小企業および小規模事業者の強化は、地方創生の取り組みとも表裏一体です。政府・地方自治体には両者を成長の両輪と位置づけ、地域ごとの特性を踏まえた成長戦略の策定と実行を強く求めたいと思いますし、われわれ全国515の商工会議所も地域経済の再生・活性化の先導役として、さらに活動を強化できる1年にしなくてはなりません。

大阪・関西万博の成功を大きな成長の弾みに

本年4月には大阪・関西万博が開幕いたします。停滞から成長への転換点にあるタイミングでの開

催は、象徴的かつ歓迎すべきことであります。「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマとする20年ぶりの万博開催が、新たな未来をつくる起爆剤となるよう、全国の商工会議所一丸となって盛り上げてまいりましょう。わが国全体の未来に向けて成長に弾みのつく万博となることを切に願ひ、皆さまの一層のご支援とご協力を心からお願ひ申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。



今年は巳年

蛇の絵に足を書き足す

蛇は、古くから人間とかかわりが多いだけに、蛇に関する故事やことわざもいろいろあります。

「蛇足」。これはよく知られている言葉で日常会話にも使われていますが、こんな由来があります。昔楚(こ)の国の役人が、蛇の絵を一番早く書いた者が酒を飲むことができると言う競争をしました。一人がいち早く完成したにもかかわらず、時間に余裕があったので足を書き足してしまい、負けてしまったという話です。そのことから、あっても意味のないもの、余計なことという意味に使われています。

「蛇の道はへび」も、よく聞くことわざです。「じゃ」とい「へび」といっても、呼び方が違うだけで同じもの。同じ仲間のやったことならすぐに分かるという意味です。

「数蛇(やぶへび)」「藪をつついて蛇を出す」。しなくてもよいことをして、かえってよくない結果になることです。

心豊かに暮らせる年に

「蛇(へび)あなを出(い)づ」という言葉もあります。冬眠していた蛇が、春暖になつて地上に出てくることをいいます。

今年は巳年。低迷していた景気から脱出して春を迎え、みんなが安心して心豊かに暮らせる年にしたいものです。

